

年4回（4月、7月、10月、1月の各10日）発行

ひゅーまん ねつとわーく

地域に生きる

2013年7月 発行 / 第54号

社会福祉法人北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル203 TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



大阪ローターアクトクラブ様の活動報告会より
ふれいすBe内 Café Be前

はっぴいふれいすBeガレットをもっと知ってもらうために

～ 大阪ローターアクトクラブと一緒に取組んだ、
ガレット販売促進活動 ～



大阪ローターアクトクラブ

社会奉仕委員長 ^{はな} ^だ ^{えり} ^こ
花 田 江里子

派遣元企業：森下仁丹株式会社 研究開発本部 商品開発グループ

1. 大阪ローターアクトクラブとは

はじめまして。私達「大阪ローターアクトクラブ（以下、大阪^{ラック}RAC）」は、大阪府中央区御堂筋に面する大阪ガスビルを拠点として活動しています。大阪RACは、大阪ロータリークラブの提唱により設立され45年を迎える若手の奉仕活動クラブです。現在、関西電力株式会社、コクヨ株式会社、ミズノ株式会社、大阪ガス株式会社、株式会社大林組、江崎グリコ株式会社、株式会社竹中工務店、森下仁丹株式会社などの地元14社の企業より派遣された30歳以下のメンバー23名で、月2回の活動を行っています。毎年中之島ガーデンブリッジの清掃活動へも参加し、大阪市内の献血支援ボランティア活動、新年のチャリティーバザーなどを自主開催し、収益金を社会福祉施設への支援活動にあてています。

2. 北摂杉の子会、はっぴいふれいすBeガレットとの出会い

「今年の大阪RACの活動テーマを発表するぞ。Dancing idea！Dancing RACだ！」会長の嶋田君が2012年7月から始まる年間テーマを発表したのは約1年前のことでした。「今年は全員でアイデアをめぐらせて、躍る、踊りまくる一年にしようや！」

新聞記事やホームページを探し、たどり着

いたのがテミルプロジェクト、はっぴいふれいすBeガレットでした。販売ページを通じて、北摂杉の子会さんのホームページにたどり着き、そこで松上常務理事のお言葉に出会いました。そこにはこれまでの「福祉」のイメージとは違い、企業の経営理念、経営改革とも言えるような熱いメッセージがありました。

そして法人の門を叩いたのはまだ残暑の厳しい2012年9月上旬、松上常務理事からは、障がい者の方に限らず、地域のニーズに丁寧に応える先駆的な支援サービスについて沢山お話を伺いました。そして率直に、企業に対する要望をお聞きしました。

その帰り道は全員の足取りが重かったのを覚えています。大阪RACに何ができるだろうか。その後の1ヵ月間は椅子で円陣を組んで



地域に生きるのロゴ入り横断幕

必至に支援できることを考えました。「大阪RAC恒例の新年のチャリティーバザーの収益を、ただ寄付するだけに終わらず、一部をガレットと法人をもっと知ってもらうことに使おうよ！」チャリティーバザーは過去最高の売上の514,241円を達成し大成功に終わりました。ガレットの支援のために、メンバーが周りをみて動き、協力できた結果です。

3. 高槻駅前でのガレット街頭アンケート、販売拡大のための営業活動

PRをする場所はどこが良いのかを考えた時、「地域に生きる」この言葉にヒントを得て、せっかくだから地元高槻をうまく巻き込む、支援のカタチを考えることにしました。

「ガレットって、いったいどんな人が、どういうシーンで購入するの?」「味はどう?」「価格は適正か?」「何より障がい者の方の賃アップにつながることにについてPRしなくては。」まずは商品について調査するという名目で、4月の土日の2日間、街頭アンケートを実施することになりました。さらに同日、ガレット販売店を増やすための営業活動にも回ることにしました。そのPR用にガレット500枚を収益金で購入。さらに手作りで母の日ギフトチラシを作り、リーフレットも印刷し、袋に封入し、家でゆっくり読んでもらえるようなサンプルをみんなで手作りしました。当日、あいにくの雨にも関わらず328名の方に街頭アンケートにご協力いただきました。また、営業活動は49店舗もの喫茶店や商業施設を回り、話を聞いてもらうことができました。

回収したアンケートを集計したところ、「他社の洋菓子店比べ、味は同等以上だ」と回答した方が約99%でした。価格については「障がい者の方が作っていて社会貢献になるなら、決して高くはない。」と回答した方が約49%。6個入りのパッケージは可愛いと好評でした。



地域に生きるフェイスシールでPR

さらに、地域のボランティア活動についても質問したところ、今後参加したいボランティア活動に「祭りなどの地域行事」と答えた方が一番多い結果となりました。

4. 高槻ジャズストリートへの出店

アンケートが終わって「もっと沢山のの人にPRできないか」を考えていた時、5月3・4日に開催され、高槻の町全体がライブハウスになり15万人を動員する音楽イベント「高槻ジャズストリート」が良いのでは?というアイデアが出ました。これは市民ボランティアにより運営され今年で15回目になります。「ガレットをただ売るのではなく、一緒にイベントを盛り上げながらガレットを知ってもらおうや!」「でもガレットが法人PRにつながらなければ意味がない。」これは試験的に実施したアンケートで見えてきた課題点でした。ジャズストリートまであと3週間。何ができる!?

目をつけたのが「地域に生きる」というロゴでした。「イベント来場者に寄せ書きをもらおう!」そこでロゴを白い横断幕にしました。さらにロゴのフェイスシールを制作し配布することに。イベントに参加しながら、ガレットの広告塔になってもらうように考えました。さらに、ぷれいすBeのご利用者が書かれたイラストを提供いただき、店舗の飾りつけに活用しました。イラストはさらにハンディタイプのウチワの中にも入れ、ガレット



ウチワを使つてのPR活動

ながら、なんとかガレットとコロケは、2日間で約17万円を売上げました。

のこと、法人のことを知ってもらえる読めるツールを作成しました。

ガレットの販売にはからあげやお好み焼きなどの人気出店の中で、苦戦しましたが、いろいろ試行錯誤しな

最近、うれしいお知らせを聞きました。6/1より営業活動で訪問した高槻の真ん中にある『高槻天然温泉天神の湯』の4階『カフェ茶の間』にてガレット販売開始が決まりました！

沢山の出会いがあり、メンバー同士の絆も深まりました。沢山の笑顔がありました。まだ残された課題も多いと思いますが、これからはガレットのこと、北摂杉の子会様のことを応援していきます。1年間、大変貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。「地域に生きる」全ての人をつなぐその言葉のそばに、いつもはっふいふれいすBeガレットがありますように。



第45期 大阪ローターアクトクラブ会員名簿

会長：嶋田悠介 副会長：若林由華 幹事：今川賢一 会計：熊田瑤子

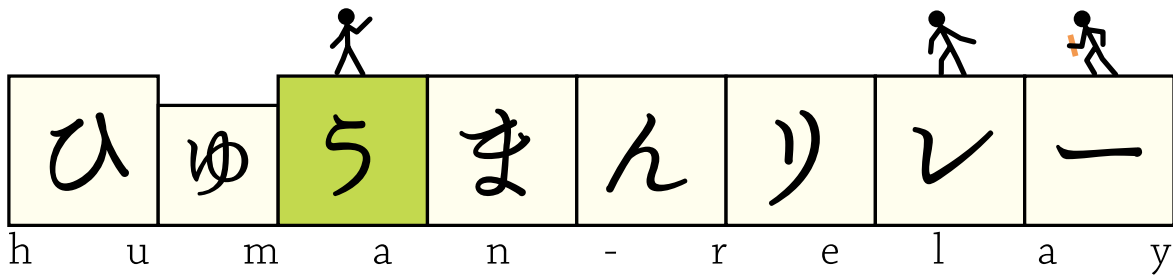
社会奉仕委員長：花田江里子 クラブ奉仕委員長：高見悠

国際奉仕委員長：細入万美恵 専門知識開発委員長：吉本有希

重田昌博 柳本佳那 宝上舞子 玉井敏博 岡田健太 一花裕一 村上飛鳥 鶴田嵩

高谷由布子 青井えみ 垣戸慶子 細川貴昭 松山奈央 原康隆 土井公人

(敬称略)



NPO法人スウィング 施設長 ^{きのと}木ノ戸 ^{まさゆき}昌幸さんより

「障害福祉」の枠を超えて ~Enjoy!Open!!Swing!!!~

● 「障害福祉」の枠を超える

ある時、友人が何気なく言った「毎日笑えるよ」という言葉だけを頼りにこの世界に飛び込んだ僕は、スウィング立ち上げ迄の数年間、ある福祉施設で働いていました。確かに友人の言葉は嘘では無かった。けれど同時に障害を持つ人の暮らしや障害を持つ人そのもの、あるいは「支援者」と呼ばれる僕たちの在り様を、ある一定の狭い世界、価値観に閉じこめてしまうような「枠」の存在を強く感じずにはいられませんでした。それは例えば障害を持つ人や「障害福祉」に対する、世間一般のイメージと言えるかも知れません。とても純粹、いつもニコニコ、何かいいことしてる。そうした肯定的なイメージの一方、よく分からない…自分とは関係ない…近寄り難い…といった否定的なイメージもあります。あまりに両極端ですし、決してこのように一括りにはできないことを僕たちは知っています。けれど同時にこれらのイメージを再生産し続けてきたのは僕たち自身なのではないだろうか？僕たちは社会福祉を名乗りながら、社会に対して偏りの無い発信を行ってきた

のだろうか？このような疑問符を丁寧に具体的に、そして愉快地に解きほぐしてゆくため、スウィングは「障害福祉」の枠を超える」という目標を掲げています。

● 我ら一市民、我らNPO、我らスウィング

「障害福祉」の枠を超える”ため、スウィングが選んだのが「NPO」というスタイルです。「NPO」とは「市民」が自発的に社会をより良くするために活動する、営利を目的としない「市民団体」のこと。スウィングでは障害を持つメンバーたちも“ただ支援を受けるだけ”の「利用者」では無く、



オレたちひょうげん族

「NPO」たるスウィングが行う様々な市民活動の主体者であり、実践者となります。“予め”「障害者」「健常者」というカテゴライズを超えた「一市民」という立場に立って社会に対し働きかけ、偏りの無い発信を重ねてゆくこと。これがスウィングのスタンスです。



人力交通案内

●「OYSS!(オイッス!) O=おもしろいこと・Y=役に立つこと・S=したり・S=しなかったり」という実践

スウィングでは様々な活動を展開していますが、中でも対価を得ることだけが「働き」ではない、お金は儲からなくとも社会に対して果たしてゆける「働き」はもっともっとあるはず!…このように考え、新しい「働き」の形をオモシロ・オカシク模索する取り組みの数々を「OYSS!(オイッス!)」と総称しています。

芸術創作活動「オレたちひょうげん族」では、メンバーそれぞれのユニークな表現・作品が生み出され、オリジナルグッズの制作・販売、展覧会や子ども向けワークショップの開催等、様々な形で社会へと発信しています。メンバーのバス、電車の類まれなる知識に注目した京都人力交通案内「ア



ゴミコロリ

ナタの行き先、教えます。」では、観光客の方々を中心に、ベターな乗換えや行き方をご案内、好評を博しています。そして「OYSS!」の代名詞とも言うべき清掃活動「ゴミコロリ」では、様々な趣向を凝らし楽しめるゴミ拾いを演出しています。お揃いのゼッケンをつけて統一感を出したり、イメージキャラクター「まち美化戦隊ゴミコロレンジャー」を登場させたり。見て楽しい!参加して楽しい!ただのゴミ拾いをそんな風にしてゆきたいと願い、試行錯誤を続けています。

●楽しむ・開く・揺れる

ある時、「「障害者」って言われるのイヤ」「“利用者”もイヤや」…こんな風に語っているメンバーたちがいました。僕たちはこの言葉をこれからも重く重く受け止めてゆきたい。「福祉」が安易に「サービス」と称され、何かとリスク管理ばかりが重視される昨今、僕たちのような小さな事業所が変化を恐れず元気に活動してゆくことが明るい「これから」に繋がってゆくものと信じています。「障害福祉」の枠を超え、我ら「一市民」の発信がまだ僕らのコトなんか～んにも知らない愛しいあのコに届くまで、ゆらゆらと揺れ続けたいと思います。Enjoy!Open!!Swing!!!

地域における包括的支援体制の構築をめざして

～地域連携を考えて～

ひきこもり支援 / 発達障害支援の 重要なネットワーク拠点



一般社団法人 office ドーナツトーク

代表 ^た田 ^{なか}中 ^{とし}俊 ^{ひで}英 さんより

僕は、ひきこもり支援を行なうNPO（淡路プラットフォーム）で10年代表を務めたあと、現在の一般社団法人office ドーナツトークを平成25年4月に立ち上げた。

少子高齢社会のなかで最も重要な問題だと僕が考える、10代後半の青少年問題（具体的には、高校中退問題とそこから始まるハイティーンのひきこもり問題や、貧困・虐待等重層化する諸問題）に特化した支援組織が必要だと考えたからだが、当然そこには「発達障害」の問題も含まれる。

前のNPO時代、僕は「アクトおおさか」にはずいぶんお世話になった。いくつかのケースの相談をするため、スタッフとともにたびたび前所長・新澤氏のもとをおとずれ、支援プランをご教授していただいたものだ。

専門家にもよるが、いまや、ひきこもる若者たちの半分はなんらかの発達障害をかかえているともいわれる。ひきこもる若者の中には、当たり前だが発達障害でない人も含まれ、障害（凸凹含む）をかかえる者・かかえない

者も含めたグループ活動を行なうのが、通常のNPOの中での支援だったりする。そのため、グループ活動の中で発達障害の若者がパニックを起こさないためにも、発達障害支援の知識を得ることは必需である。

また、障害者として自立する者、あえて健全者としてしばらく模索する者など、その自立の過程はまさにケースバイケースであり、障害に対する深い知識と柔軟な対応が求められる。加えて、保護者に対する支援も重要であり、ケースごとに時には思い切った判断も求められる保護者支援は、僕にとっては勉強になることばかりであった。

一民間団体だけでは、このような創意工夫を交えた支援プランを構築することは不可能だと僕は考える。そのために、「アクトおおさか」のような専門機関といかに有効なネットワークが組めるかがポイントになる。その意味で、「アクトおおさか」は僕にとってベストだった。新法人になっても、同じようにネットワークしていきたいと考えている。

平成14年、看護師が資金を出し合い会社を設立し、アパートの一室で訪問看護ステーションを立ち上げたことが、アットホームの始まりです。「どのような障がいや病気があっても、みんな家族のように助け合って生きていこう」を会社理念とし、一人ひとりを大切に、その人らしい生き方を支えるケアを提供することに今日まで励んできました。現在は、訪問看護・ケアプランセンター・デイサービス・訪問介護・障害者居宅介護事業を大阪府（高槻市・池田市・箕面市・三島郡島本町）で行っています。

「デイサービス喜楽庵」は平成16年に開所しました。縁側のある民家で、家に帰ったような懐かしい雰囲気好評です。開所時から、積極的に認知症の方の利用を受けています。利用者さんにとって本当に安心できる居場所になるまで、無理強いせず、少しでも楽しい時間を過ごしていただけるよう、じっくり、ゆっくりお付き合いをしています。

喜楽庵に萩の杜ご利用さんが来られるようになったのは、今から4年前のことです。はじめは、デイサービスで自立支援のお手伝いになるのかわかりませんでした。社会に貢献したいと思う気持ちに感銘を受け、来ていただくことになりました。それからは、雨の日も、雪の日も、台風でも、萩の杜から一時半もかけて、高槻の北から南へバスを乗り継ぎながら来てくれました。

職員の方からは、「いつもガチャガチャを楽しみに来ているのですよ」と伺っています。ガチャガチャというのは、昼食後の食器拭きのことです。この言葉を聞いて、最初は、私達がすべきことをしていただいて悪いなと思ったこともありましたが、今では食器拭きという仕事を引き受けるということで、自然と喜楽庵の一員になっているということに気付かされました。そして、いつも明るく笑いながら、生き生きと食器を拭いている姿に、人生の楽しさを教えていただいているような気がします。これからも、その笑顔で皆を癒しに来てください。

また、アットホームでは、今年7月に障害者共同生活介護・共同生活支援事業、8月に障害者就労継続支援B型・就労移行支援事業を京都府南丹市園部町でスタートします。園部の自然の中で農作業を中心に、一人ひとりの多様性を認め、支え合い、自然に学びながら働く「場」を作っていきたいと思っています。



『平成24年度セーフティネット支援対策等事業（社会福祉推進事業分）
社会的就労支援事業のあり方に関する調査・研究』
についてのご報告



ジョブジョイントおおさか

所長 ^{たか}高 ^{はし}橋 ^{あきこ}亜希子

1. 経緯

ジョブジョイントおおさかは平成23年4月に開設しました。開設に際して、発達障害のある人の就労について、株式会社インサイト・株式会社WOWGROUP・ジョブジョイントおおさかの3者で具体的な支援内容について、月1回のペースで検討会を始めました。

その検討の中で、発達障害のある学生に対する支援の必要性が確認され、今回の研究事業である『発達障害学生のためのインターンプログラム』の取り組みへと繋がりました。

まず初めに、今回取り組みました発達障害のある大学生のインターンプログラムの重要性についてお話ししたいと思います。

私が大阪府発達障がい者支援センター「アクトおおさか」で就労相談に携わった中で、発達障害のある人の特性として、いくら就労したいというニーズがあっても、実体験がないとなかなか就労のイメージが持てない「想像することの困難性」ということがありました。特に学生の場合、本分は勉強ですので、就職活動を勉学と同時並行して行うことが難しく、結果として、就職や次の行き先も定まらないまま大学を卒業して、いわゆるニート・フリーター状態に余儀なくなってしまうという現状があります。

実際、ジョブジョイントおおさかのご利用者も高等教育機関を卒業あるいは中退してから、利用される方が多くいたことから、在学中から「インターンシップ」という形で実際の職場（企業）で就労体験を行うことができ

れば、卒業時には少しでも明るい方向性を持って次のライフステージの選択が可能になると考え至ったことがきっかけでした。

今回、インターンシップの支援については、平成23年度3月（春休み）に試行実施を4名の学生で実施し、平成24年度の本格実施に備えシミュレーションを行い、その分析を踏まえて、表題の調査・研究事業の本格的実施を行いました。

2. 実施概要

上記のような経緯から、今回の研究事業では、

- フリーター・ニート・引きこもり（予備軍含む）の実態調査（※特に高等教育機関の発達障害のある学生を中心に調査）
 - 大学・短大生の支援付き就労体験モデル事業実施
- の2つを中心に行いました。

(1) フリーター・ニート・引きこもり（予備軍含む）の実態調査

高等教育機関の発達障害のある学生支援についての現状や課題を把握するために、全国の約1300の大学・短大にアンケート調査を行いました。

その結果、発達障害のある学生数（診断有・無を含む）が全学生の0.1%を超える大学・短大は全体の22%（117校中、26校）でした。

また、200名近くの発達障害のある学生を抱える大学もあり、発達障害のある学生支援が大きな課題になっていることがわかりました。

しかし、全人口に占める一般的な発達障害者の割合から勘案すると、多くの大学・短大において、発達障害のある学生の割合は少ないことから、発達障害のある学生を把握する体制が整えられていないと考えられ全体像をとらえきれていないという実態が浮かび上がってきました。また、発達障害のある学生の中には、休学や退学しているケースが多く、在学中に何らかの困難さを抱えているケースが多いことも見えてきました。さらに、発達障害のある学生の就職率は発達障害（診断有）が29%、発達障害（診断無）が45%であり、ほかの障害のある学生の中でも低水準であることもわかりました。

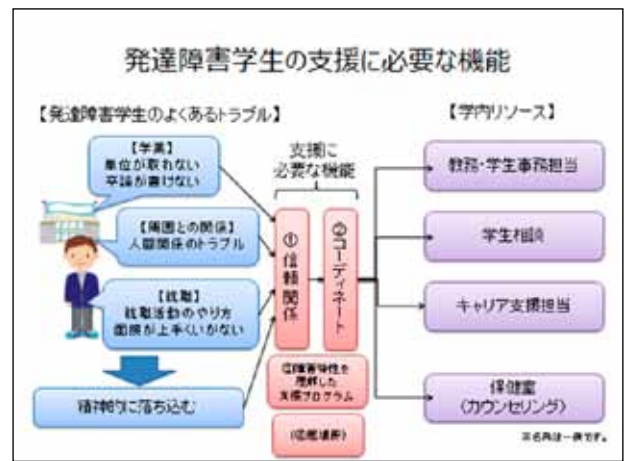
以上の状況にもかかわらず、発達障害を支援する専門部署を設置している大学・短大はほとんどなく、全く発達障害のある学生の支援を行っていないケースも30%を超えていました。また、職員や教員向けの発達障害のある学生に対する支援のガイドラインもほとんど作成されておらず、発達障害のある学生の支援環境は整っていないと言えます。

その一方で、発達障害のある学生のキャリア支援への問題意識がある大学・短大も一定数存在するため、問題意識はあるものの、大学組織として支援体制を作り切れていない、という状況が確認できました。

学生の側も、「人とのやりとりが苦手」「受け入れられるか不安」という理由を背景に、大学内の学生相談部署やキャリア支援部署など、学生のニーズに応えられる学内リソースはあっても活用できていないという現状が考えられます。

こうした状況の中で、発達障害のある学生支援が上手く進んでいる大学・短大は、右記の図内にある①～④の機能があり、これらを活用して必要な支援をしているという共通点が確認できました。

発達障害のある学生を支援する学内横断組織を保有しているケース・保健室などの担当



が個人的に学内のリソースに学生をつないでいるケースがあり、それぞれの学内組織に合わせた支援が行われていることもわかりました。

これらのモデルケースを参考にして、学内での発達障害のある学生支援のモデルケースを作り、それを発信していくことが、今後、発達障害のある学生の就労支援を進めていく上で重要であると感じました。

しかし、学内だけでは解決し切れない問題も多いため、「在学中に培った大学との信頼関係を卒業後にどのように繋いでいくのか」という課題解決に向けて、「卒業後も活かせる支援プログラム」や「キャリア支援」が必要であること、そのために大学と連携したモデルづくりを構築することが急務であることが確認できました。

(2) 大学・短大生の支援付き就労体験モデル事業の実施について

本事業において、学生、企業から以下の参加があり、実施しました。

- 2012年夏のインターンプログラムに学生16名（関西14名、関東2名）、企業10社
 - 2013年春のインターンプログラムに学生37名（関西27名、関東10名）、企業23社
- 以下に本インターンプログラムの成果をまとめて、報告します。

成果①：学生、企業のレポート参加率は共に100%

2012年夏に関西で実施したインターンプログラムに参加した14名の内、12名は2013年春のインターンプログラムにも参加したりピーターであることから、本事業に対するニーズの高さがうかがえるものとなりました。また、参加しなかった残り2名についても、1名は就職、もう1名は就労移行支援事業所を利用開始したため、実質的なリポート率は100%という結果を得ることができました。

学生にとっては、今回のインターンプログラムへの参加を通して、会社・組織の一員として業務に携わったことで、「認められた」「役立った」という実感を持てたことは、今後の就労への方向性を考える上で、非常に大きな体験になったと思います。この成功体験が、次もやってみたいという意欲につながり、また、インターンプログラムの実体験を得ての気づきが自分自身の成長意欲に発展していくと考察しています。

2012年夏のインターンシップによる学生の受入企業の全てが、2013年春のインターンシップ実施についても学生を受け入れて頂くことができました。

成果②：8名中7名の学生の進路が決定

大学4年生、大学院2年生をはじめ、卒業を間近に控えた学生8名のうち、卒業後、就職に至ったケースが3件（就労継続A型事業所への就職を含む）、就労移行支援事業所の活用につながったケースが4件ありました。したがって、本インターンを通して、企業就労が実現するとともに、就労に向けた進路に繋がる契機となったと言えます。

成果③：企業内の理解が深まり、発達障害のある学生の雇用に向けたステップが構築

2013年春のインターンでは23社の企業が発達障害のある学生の受入をしてくださいました。企業へのインターン学生の受け入れについての実質的な営業活動はあまり行えていなかったにも関わらず、多くの企業にご参加頂いたことは大きな成果であると思っていま

す。このことは、企業の障害者雇用、特に発達障害のある人たちに対する雇用についての関心の高さを表していると言えます。

企業側からのご意見として、「発達障害のある学生への理解が深まった」、「社会問題として広く世の中に発信すべき」、「今後も受け入れたい」との声が多く聞かれ、発達障害のある学生への理解及び雇用に向けて、有意義であったとの感想をいただきました。また、インターンを受け入れた企業のうち、2社は受け入れた学生の雇用にまでつながっており、発達障害の雇用に向けたステップが構築されつつあると思います。

成果④：大学側は「学生の自己理解に役立つ」、「キャリア支援に効果的」との意見

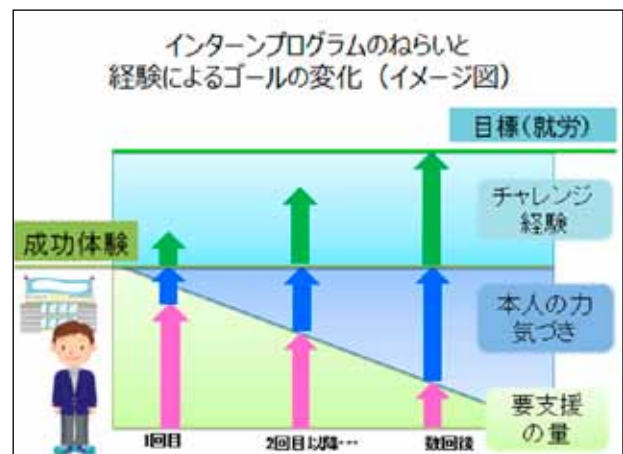
社会の中でどう生きて行けばよいか分からなくなっている学生に対して、自尊心を保ちながら、本人へのフィードバックを行う事が出来たことは、大変有意義であったと思っています。

しかし、比較的支援が行いやすい層の学生であっても就職先を探すのは困難でした。

大学として支援出来る事に限りはありますが、本インターンを通して、本人、家族、大学で、今後どのように協働で支援するかについて検討する機会が持てたことは、大きな成果だと思っています。

成果⑤：インターンプログラムのねらいと成果が整理

インターンシップ実施については、以下の



狙いがありました。

- 本人への個別の支援を行いながら「成功体験」を積むこと
- 学生本人が就労体験して、得た気づき（自己理解）に対して、学生本人が意識し成長する力を身につける事
- 社会（企業）での就労体験の経験を重ねることで、就労への課題が整理され、雇用に向けてのチャレンジのベクトルが伸びる事

また、今後の目指すべきねらいを、以下のように感じています。

- 当初は「成功体験」を積むための支援は多めであっても、徐々に企業の中での所属感や自分に与えられた業務に対して役割期待・評価を感じ、次への意欲（支援の量が減り、本人の気づき→チャレンジや経験の量が増える）につながる。
- 「成功体験」での気づきが、就労や社会生活に向けての意識の高まりとなり、自分自身の課題に対しての対処や予防法を実践できる。
- インターンプログラムを数回経験することで、支援が減少、本人の気づき部分が増加し、目標である就労生活へのイメージや課題がより具体的になる。

3. 今後の課題

上述したように、インターンプログラムを基本とした支援を通して多くの成果が得られました。その一方で、今後の個別のキャリア支援の深まり、インターンシップの利用ニーズの拡大を考えた時に、特に以下の点が重要な課題であると考えています。

- ① 本人のスキルや経験が企業に伝わるような仕組みの構築が課題であること。そのためには、スキルシートやカルテなど開発を図ることが必要となります。そのためには、企業、大学の評価基準の共通化が必要とな

ると考えています。

- ② 高度なスキルを持った学生に対するインターンプログラムとともに、就職が難しい層へのプログラム開発や、余暇活動やアルバイトなど、インターンにとどまらないプログラムの開発を進めなければならないと考えています。
- ③ 企業と学生のマッチングの強化を図ること。そのためには、マッチングフェアのような企業と学生の双方より複数のエントリーが可能となる属人的にならない仕組みの構築が重要となります。
- ④ 大学側の課題としては、就労に対するアセスメントや就労支援が出来る人材の育成が課題としてあると思っています。
- ⑤ 自立訓練や就労移行支援など、就労支援制度を組み合わせた大学生支援の支援サービスの活用方法や新たな支援サービスのあり方を検討する必要があります。

最後になりましたが、アンケートにご協力いただいた大学の皆様、インタビューにご協力いただきました若者サポートステーション、就労移行支援事業所、発達障害のある人を雇用する企業の皆様、またインターンプログラムで学生を受け入れて下さいました企業の皆様、そして、東京での実施にご協力頂きました株式会社テンプスタッフフロンティア様、NPO法人Pand-J様、株式会社インサイトの皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

※紙面の都合上、要約した内容になっております。詳細は後日ホームページに掲載させていただきます。ご了承ください。

『重度・高齢化対策プロジェクト』第二期のはじまり



重度・高齢化対策プロジェクト

プロジェクトヘッド・作業療法士 こばやし 小林 てつり 哲理

1. はじめに

当法人では、ご利用者の重度・高齢化対策にプロジェクトで取り組んでおります。

重度・高齢化といっても、その度合いは各事業所によって異なります。転倒事故が現実のものである事業所もある一方、元気に走り回っているご利用者を見て、まだまだ実感が持てないご本人やご家族、支援者も多いかと思えます。

しかし、誰でも必ず歳をとるものです。高齢化は突然やってくるものではなく、現在の生活の延長線上にあるものと考えます。

さまざまな課題が見え始めた今こそ取り組む必要があると考えます。抽象的な議論ではなく高齢化したご利用者の生活を具体的に想像して取り組んで参ります。

2. 「健康」って何？

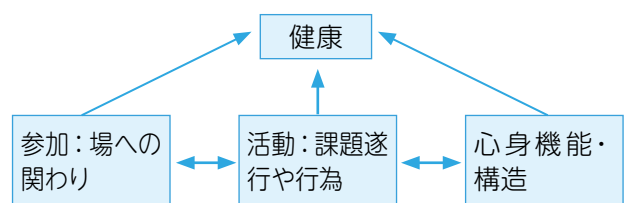
私たちはご利用者の健康な生活を保障することを目指しています。しかし、世の中には「健康」という言葉があふれていて、それぞれの人がイメージする「健康」は様々だと思えます。そこで、プロジェクトでは「健康」について共通理解を得ることにしました。健康を『病気がないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること（公益法人日本WHO協会の定義による）』として位置づけました。

では、具体的にはどのように考えることができるでしょうか。

健康を考えるにあたっては、世界保健機構の国際機能分類（ICF）の考え方を用いました。健康は3つの構成要素で考えることができます。それは、参加と活動と心身機能です。参加とは、生活・人生の場面への関わりのことであり、活動とは、課題や行為を個人で行っていることで

す。心身機能は、身体の生理的な機能のことであり、構造は身体の器官や肢体とその構成部分のことをいいます。

例えば、旅行が好きで元気なあるご利用者が転倒して骨折して歩けなくなり（心身機能）、移動に車椅子を使用することになったとします（活動）。施設で電車を使って旅行を計画したのですが（参加）、駅にエレベーターがないことから、このご利用者は旅行には参加できないということになった場合、満たされた状態といえるでしょうか。参加できないのは、足が悪いこと、車椅子使用であることだけが要因ではなく、エレベーターの設置がないこと、周囲の援助が得られないことも要因だと考えます。駅員さんや周りの人の手を貸してくれれば（環境の要因）、駅を利用することができるのです。このように、それぞれの要因は相互に関係しております。参加が制約されたり、活動が制限されたりすることを健康が害された状態だと捉えます。私たちは、「地域に生きる」の理念のもと、ご利用者の参加制約や活動制限に対してアプローチしていきます。また、参加や活動を支える心身機能や構造の維持を積極的に行っていきます。



3. 生活が不活発なのも病気なの？

『動かないと体がなまる、弱る』ということは高齢者や障がいのある人では特に起こりやすいです。「動きにくいから動かない（活動に参加しない）」→「全身の心身機能が低下する」→「そのためますます動きにくくなる」という、「悪循環」に陥った状態を生活不活発病といいます。

生活不活発病は、文字どおり、「生活」が「不活発」になることで全身の機能が低下する病気です。

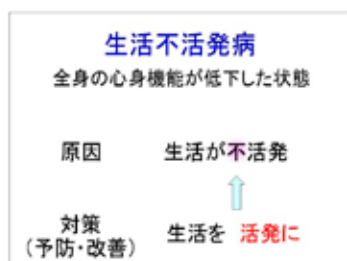


図 障害保健福祉機構研究情報システムホームページより

このような悪循環を断ち切るには、生活不活発な状態を早いうちに発見し、予防・回復をはかることが必要です。高齢者で要支援の人が要介護状態になる原因としては、「高齢による衰弱」「関節疾患」「骨折・転倒」が約半数を占めています。

高齢による衰弱により「膝痛・腰痛」がある方や、「骨折・転倒」を起こした方は、体を動かす機会が減ってしまいます。それが原因で、筋肉が衰えたり骨がもろくなったりして、体の機能が低下して動けなくなるおそれもあります。このように、「体を動かさない状態が続くことによって、心身の機能が低下して動けなくなること（「廃用症候群」）」を防ぐためには、体を動かすことが重要であると考えます。

そこで、ご利用者が体を動かしたいと思える環境や体を動かしやすい環境および体を動かしても安全な環境を整えていくことをプロジェクトでは考えております。具体的には、①予防のためのプログラムの立案（予防対策ワーキンググループ）、②手すりの設置や福祉用具の活用などによるバリアフリー（バリアフリーワーキンググループ）、③いざというときにすぐに対応ができる医療との連携（医療連携ワーキンググループ）や、

表 各ワーキンググループの具体的な取り組み

予防種別	予防対策 一次予防	バリアフリー 二・三次予防	医療連携 一～三次予防	医療職体制 一～三次予防	入院体制 二・三次予防
行うこと	①ご家族へのアンケートにより、運動・栄養・余暇の実態とニーズを把握し、その結果に基づきプログラムを立案する ②既存のプールプログラムを拡張・改良する	①現在のご利用者の状況に応じた手すりを法人内施設に設置する ②福祉用具の積極的活用を行う ③日中の入浴サービスのニーズの把握と入浴設備の充実を検討する	①真野先生の巡回相談を通して、医療的な視点の「学び」の仕組みを確立する ②医療的視点でのご利用者支援マニュアル作成を行う ③杉の子カルテ（法人独自のご利用者の医療情報シート）を整備する ④障がい対応の病院リストを整備する	①法人内で医療職の職務を明確にする ②5年後の法人全体での必要かつ適正な医療職の種類と人数を提案する ③保健を担う組織（部署）の必要性や実現可能性を検討する ④医療職会議の内容や位置づけを明確にする	①（集団感染など）複数入院の調査と検討をする ②具体的なケースを想定した入院マニュアルの整備をする ③入院費用や利用できる制度等、ご家族向け説明資料を作成する ④入院時の互助会（積立）の制度の検討をする

④法人内の医療職の体制（医療職体制ワーキンググループ）、⑤入院時の体制（入院体制ワーキンググループ）です。①～⑤の各ワーキンググループの具体的な取り組みを表にまとめました。

4. いつ取り組むのか？ 今でしょ！

これらの取り組みはいつから実施されるのでしょうか。遠い未来なのでしょうか。

予防の概念は、一次予防、二次予防、三次予防の三段階に整理してとらえることができます。まず、一次予防は、健康な人を対象に、発病そのものを予防する取り組み（健康づくり、疾病予防）です。二次予防は、すでに疾病にかかった人を対象に、症状が出現する前の時点で早期発見し、早期治療する取り組みです。そして三次予防は、症状が出現した人を対象に、重度化の防止、合併症の発症や後遺症を予防する取り組みです。

重度・高齢化対策プロジェクトで検討し立案された施策は、まずは一次予防として、今から取り組んでいきます。また、ご利用者の状況に応じて二次予防・三次予防がすぐに提供できる状態をつくります。

5. 終わりに

このプロジェクトは、平成26年の3月に具体的に実行可能な重度・高齢化対策を立案し活動を終えます。プロジェクトでの提案は経営会議での検討を経て実現します。

当プロジェクトのワーキンググループで取り組んでいるテーマは、現在、歴史のある多くの障がい者施設で課題となっております。プロジェクトでは、皆様のお知恵を拝借しながら、有効な重度・高齢化対策をまとめていく所存です。どうかご理解・ご協力のほど、お願い申し上げます。

業務貢献表彰報告

当法人では、職員の業務に取り組む意識やスキルアップをねらいとして、サービスの質の向上や地域社会と法人の関係発展等に貢献した、優れた取り組みやアイデアを表彰する業務貢献表彰制度があります。今年度は過去最高の11の取り組みがエントリーされ、その中から8つの取り組みが表彰されました。今回は優秀賞に選ばれた発達障害児療育支援部の2つの取り組みをご紹介します。今度も順次発表させていただく予定となっております。

(法人内表彰制度) 平成25年度
業務貢献 優秀賞

発達障害児療育支援部①

「研修・教材委員会」の取り組み



自閉症療育センターLink

管理責任者・臨床発達心理士 水口真奈

発達障害児療育支援部は、「児童デイサービスセンターan」（大阪市淀川区）、「自閉症療育センターwill」（高槻市）、「自閉症療育センターLink」（枚方市）と3箇所の療育センターからなります。

事業内容としては、自閉症、広汎性発達障害、アスペルガー症候群等の幼児・児童に対して、発達検査を行い、丁寧な評価から一人ひとりの特性やニーズに基づいた個別支援計画を立案して、療育プログラムを実施しています。また、保護者の方に対しても、我が子の障がい特性を正しく理解し、特性に配慮した支援を日常的に行えるよう、個別療育で具体的な支援方法のモデルの提示や、研修会を実施し、家庭や地域へ発展・応用を目指して支援しています。その他にも、地域の発達障がいの幼児・児童に関わる機関に対する研修や相談支援事業も行っています。

1.はじめに

療育支援部は3つの事業所が離れたところにあることや、1つの事業所の職員数が少人数であることから、3事業所が協力して業務を進め、サービスを一定にしながら質の向上を目指していく必要性がありました。また、職員としても、ご利用者から頂きますニーズに応え、よりご満足いただけるようなサービスの実現を目指していきたいとの思いがありました。このことから、療育支援部では平成23年4月に4つの委員会を立ち上げ、3事業所の職員がそれぞれの委員会に所属して、活動を進めてきました。

今回、業務貢献表彰で優秀賞をいただきました研修教材委員会の取り組みについても、「サービスの質の向上」を大きな目的として、職員自らで活動内容を検討して自主的に取り組んできました。

具体的な活動内容としては、(1)研修会情報の共有 (2)事業所間での教材の共有 (3)保護者

に向けての教材販売となります。それらの活動方法やその成果について、ご報告させていただきたいと思えます。

2.活動の目的、取り組み方法とその成果

(1) 研修会情報の共有

職員の専門性を高め、サービスの質の向上を目指すためには、職員一人ひとりが外部の研修会などへも積極的に参加して、自己研鑽に励むことが必要不可欠であると思えます。

しかしながら、各個人だけでは研修会の情報を見落とししたり、日程や費用の面からも多くの研修会に参加するとは難しいという現状がありました。そこで、解決策として以下の4つの取り組みを実施しました。

- ①各事業所で、知っている研修会情報が載っているサイトを3事業所で共有し、一覧表にまとめる。
- ②各事業所で収集した研修会情報を、自分の事業所の職員だけでなく、他事業所にもその都度、周知し情報共有を行う。
- ③職員が、研修会に参加した際は、研修内容の報告やレジュメ等の回覧を行う。
- ④3事業所全体での部内研修の際に、「伝達講習」を実施する。

このように、各個人が得た情報や学んだことを、自分一人のものにするのではなく、他の職員にも伝えることで、療育支援部全体の人材育成、そしてサービスの質の向上につながると考えました。

取り組みの成果

研修会の情報を皆で共有することで、関心のある研修会を効率的に見つけることができ、積極的な研修会への参加につながりました。また、「伝達講習」を行うことで、関心のある内容であっても費用や日程などの関係で参加することができなかった職員も学ぶことができ、療育支援部の全体の専門性の向上につながったと思えます。そして、「伝達講習」をす

る側にとっても、部の代表として研修に参加していることの自覚や研修内容をより深めるきっかけにもなりました。

こうした取り組みにより、部内全体で人材育成の意識が生まれ、連帯感や責任感が更に高まったと感じています。

(2) 事業所間での教材の共有

療育では、お子さま一人ひとりに合わせた教材や支援グッズが必須となります。しかしながら、職員は多くの担当ケースを抱える中、療育業務の合間にそれらを個別に合わせて一から作成することは、厳しい状況ではありませんでした。また、各事業所によって職員が異なりますので、療育教材のバリエーションや取り組みの内容も多少異なっています。その中には、各事業所独自の、素晴らしい教材や画期的な取り組みも沢山ありました。そのような良いアイデアを、その事業所だけに留めるのは惜しいと思ひ、3事業所で共有することで、更なるサービスの向上につながり、職員にとっても良い刺激になります。取り組み方法は以下の2つです。

- ①定期的に各事業所で新しく作成した教材データや取り組みなどを情報共有する。
- ②3事業所全体での部内研修の際に、各事業所お勧めの教材や取り組みのアイデアについての発表会を実施する。

取り組みの成果

この取り組みを通して、自分の事業所のことだけでなく、他事業所の療育での取り組みや異なる教材についても知ることができました。そして、それらの支援のアイデアを共有することができたことで、更に教材や取り組みの幅も広がりました。また、各事業所がそれぞれ教材を一から作成しなくても、データを共有することができたため、仕事の効率アップにもつながりました。

(3) 保護者に向けての教材販売

療育方針の1つとして、「保護者に我が子の障がい特性や必要な支援方法を学んでいただき、ご家庭でも日常的に子どもに対する支援が行われるように支援すること」を掲げています。しかしながら、保護者自身のご家庭で使用する支援グッズを1から全て作成することは、子育てや就労など、個々の様々な事情を抱える保護者にとっては、大変負担となり困難な現状がありました。また、近年では発達障がい児向けの支援グッズをネット等で販売している業者も多いため、既存の物を購入して利用されている方が増えていました。しかし、沢山ある情報の中から、保護者自身でお子さんに合ったものを見つけるということは難しく、購入したもののうまく使用することができないという様子も見受けられました。

そうした中で、毎年、多くの保護者から、「療育で使用している教材を売ってほしい!」との声をよく頂いており、ニーズの高さは感じていました。しかしながら、今までは事業所のスタンスとして、「保護者自身で、我が子の支援グッズを作成すること自体が学びになって、ご家庭での支援の継続につながる」との思いがあり、教材の販売は積極的に行っていませんでした。しかし、時代背景や家庭環境の変化

などからも、こうしたニーズに応じていくことが必要ではないかと考えました。

また、全てを既存の物に頼るといった極端な考えではなく、ご家庭での支援のきっかけづくりとして提供し、親子共々成功体験を積み、そこから継続したご家庭での支援につなげていってもらえたらとの考えで、取り組むことに決めました。取り組みの方法としては、以下の2つになります。

- ①例年実施しているご利用者アンケートの結果から、ニーズの高かったものについて、療育支援部オリジナルの支援教材や手順書を作成する。さらに、必要な教材については取り扱い説明書を作成し、保護者の方に使い方が理解しやすいように工夫を行う。
- ②販売教材ファイルや注文票を作成して、各事業所に常備して、いつでも購入できるようにする。

《販売教材》

- 販売教材は、身辺自立を主に20種類。
- 手順書は、職員の手書きのイラストなど、全て手作りで作成。
- 平成23年度は、準備期間に充て、実際の販売は平成24年6月からスタートする。

歯磨き手順書



プラダン

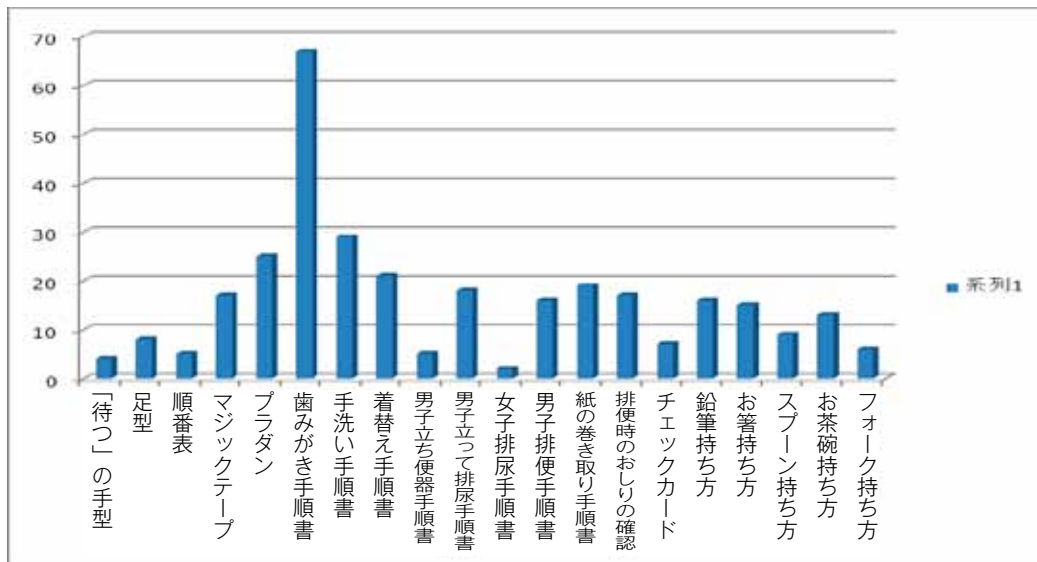


順番表



「待つ」の手型





(上表：教材別購入数)

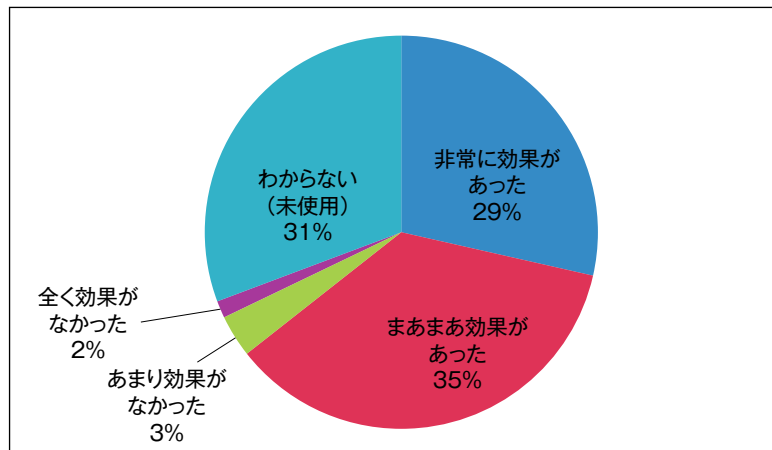
取り組みの成果

ご家庭での様々な事情により、ご自身で支援グッズを作成することができないと言われる保護者の方であっても、今回販売した教材を購入して、ご家庭で使用して頂くことができました。このように、既存の教材を購入することで、作成に要する負担の軽減から、ご家庭で支援に取り組むことのハードルが下がったようでした。また、保護者の方に実際の教材を見て頂き、個々に合わせてご家庭での使い方などを職員が説明し提案したことで、よりイメージを持てたことも、ご家庭で支援を取り入れるきっかけにつながったと感じています。

その他にも、保護者自身で、購入した手順書

を我が子用にアレンジしたり、それを参考にして違うものをご自身で作成されたりといった様子も見られました。また、療育で取り組んでうまくいっている教材をご家庭でも同じように使うことで、子ども自身も取り組みやすかったと思っています。また、保護者自身も、ご家庭での支援において成功経験を積むことができ、更に意欲的になっていかれたようでした。

職員としても、教材販売を通して、より一層、保護者とご家庭での支援方法や子どもの特性について、一緒に評価し、助言なども行えたため、大変良い取り組みになったと感じています。



(上表：販売教材使用后アンケートから抜粋：購入した教材を使用して、お子さまへの効果)

※販売教材の購入は、療育を利用している間のみ限定したため、最後にまとめて購入される方が多く、未使用のため「わからない」の回答が多くなっています。

3. さいごに

今回、研修委員会では、①研修会情報の共有 ②事業所間での教材の共有 ③保護者に向けての教材販売について取り組み、大きな目的である「サービスの質の向上」につながる成果を上げることができました。

今後については、良い取り組みは継続しながらも、アンケート結果や保護者や職員から

の意見などから、現状やニーズの分析を行い、新たな取り組みの提案や改良など、積極的に行っていきたいと考えています。

時代背景や社会情勢、家庭環境などの変化からご利用者のニーズも日々変化しています。私達は、絶えずご利用者のご満足を一番に考えながら、それに合わせたサービスを日々模索して発展させていきたいと思ひます。

(法人内表彰制度) 平成25年度
業務貢献 優秀賞

発達障害児療育支援部②

「広報委員会」の取り組み



自閉症療育センター will

支援員 市原 くるみ

はじめに

発達障害児療育支援部・広報委員会では、主に部内活動の広報、ホームページの改定作業、事業所新聞の作成・発行を行っております。こうした取り組みは2年前から実施しております。今回の表彰対象となった「事業所新聞 (an新聞・will新聞・Link新聞)」発行に至るまでの経緯、成果や今後の展望について、以下にご報告させていただきます。

年々、発達障がいや療育への関心は高まり、それに合わせて電話での問い合わせも増えています。そして、インターネットで法人のホームページを見て、お電話される方が多く、そのほとんどが「療育で、どんなことをするのか?」「支援をすることで、子どもはどのように変わるのか?」などの問い合わせです。たしかに、ホームページを見ただけでは、詳しい療育の内容はわかりにくく、施設のイメージも持ちにくいだろうということが現状と

してわかりました。また、一般の方に対しての情報提供についても整っておらず、実際に療育を経験しないと療育の内容や具体的な取り組みについてわからないことが多くあります。その様なことから、発達障がい児の専門機関として、特性理解の啓発や療育を受けていない方にとっても有益な情報を発信していく責務があると感じるようになりました。各事業所でどんな療育をするのか、さまざまな支援にはどういった意図があるのかを伝える方法として「事業所新聞 (an新聞・will新聞・Link新聞)」というかたちにしました。新聞にすることで、親しみやすく、発達障がいのお子さまのいらっしゃる保護者の方にとっても、療育は“専門的で難しい”というイメージから“これなら家でできるかも”という考え方に少しでも変わるのではないかと思ひ、発行に至りました。

「事業所新聞 (an新聞・will新聞・Link新聞)」 発行にあたって

事業所新聞は、約3か月に1回のペースで発行しており、各事業所で、各号のテーマを決め、取り組み内容を分担して作成しております。例えば、「身辺自立」というテーマで、各事業所で「手洗い」「排泄」「食事」の取り組みに分けて紹介しています。そうすることで、

関心のある取り組みに絞って、閲覧することもできます。ホームページや療育室の掲示板に掲載することで、多くの方が見ることができ、支援方法についても具体的にわかりやすく解説し、写真やイラストを用いることで視覚的に理解しやすいよう工夫をしています。また、バックナンバーもホームページ上で閲覧できるようにしています。

<平成23年9月号 (事業所新聞第1号) >



事業所新聞は、ホームページ上で不特定多数の方に見られるものなので、発行までの書面のチェックについても、複数人での確認・編集作業を丁寧に行っています。また、できるだけ専門用語を使わず、文章表現にも気をつけ、実際の療育場面の写真や事例を使用することで、読む人すべてにとってわかりやすく作ることを心がけています。先ほど申し上げたように、お子さまへの支援は、決して専門の療育施設だけでしかできないことではなく、日常生活場面でもできることがたくさんあります。「なぜ、そのような行動をするのか?」「なぜ、うまくできないのか?」と困ることは、生活場面でも多くあるはずです。その原因や発達障がい者の特性について、正しく理解し、支援のプロセスを学ぶことで、日常生活は大きく変わっていくと思います。事業所

新聞を読んで特性についての理解を深め、ご家庭や地域での子育てのヒントに役立てて頂ければ幸いです。

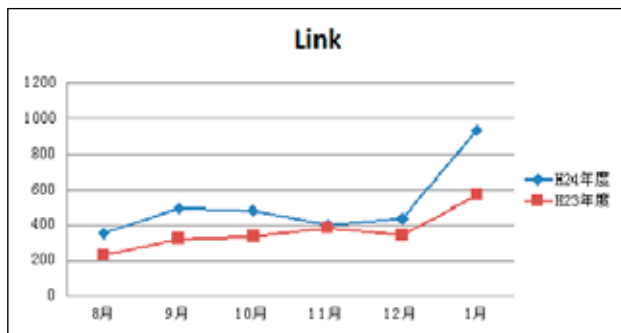
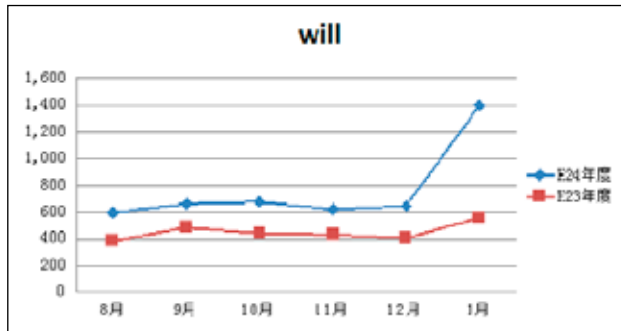
成果と今後の展望

各事業所で「療育事業説明会 (施設見学会)」を定期的に行っていますが、事業所新聞をいつも見ている、来年はぜひ通いたいとおっしゃってくださる保護者の方も増えていきます。具体的な支援方法の説明や実際の取り組みの写真があることで、どんなことをするのかがわからなくて不安な保護者の方も「こなら楽しく通えそう」「適切な支援が受けられそう」という安心感につながっているのだと思います。ホームページへのアクセス数も増加し、申込者数も年々増えていきます (図1・図2)。近年、インターネットで情報を得る機会

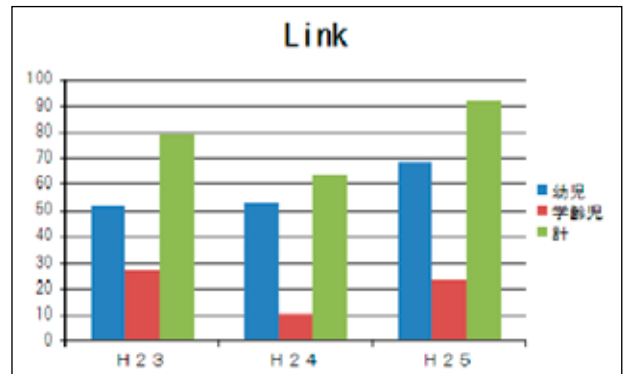
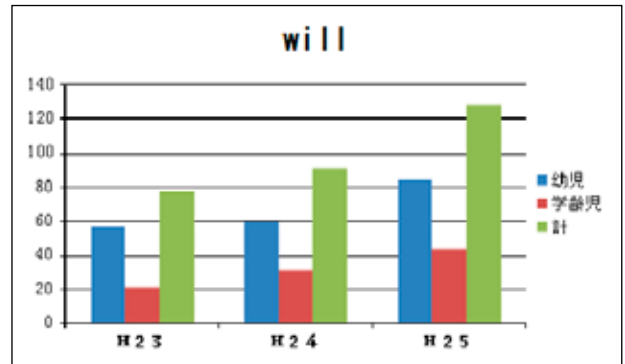
は増えているので、ホームページ等を利用したの情報発信はとても有効なものと考えられます。これからも、療育についての情報発信、具体的な支援方法や子育てのヒントになるもの、また発達障がいについての啓発活動をす

すめていきたいと思います。

参照として、法人ホームページのアクセス数および申込者数推移のグラフを掲載しております。（※グラフについては、平成24年度圏域利用者を対象とする will と Link のみ掲載）



(図1) ホームページアクセス数推移 (前年同月比較)



(図2) 申込者数推移 (過去3年比較)



アフリカの「見えない飢餓」の撲滅を目指して ②

アライアンス・フォーラム財団

プログラム・マネージャー 松 上 純一郎

(前回までのあらすじ) _____

世界では栄養バランスの取れていない食事による慢性栄養不良が蔓延しておりこれに起因する疾病で年間600万人の子供が亡くなっています。慢性栄養不良でも子ども達のお腹は満たされているケースは多く、症状が見た目に明らかではないため、「見えない飢餓」と呼ばれています。アライアンス・フォーラム財団は2008年よりアフリカ原産の食用藻「スピルリナ」を用いて、アフリカ人によるアフリカ人の問題解決を目指して活動を展開しています。ザンビア政府の認可を得て、2010年にHIV/AIDS 孤児の施設でスピルリナの配給活動を開始し、受容性に問題がないことを確認しました。



深刻な栄養不良問題を抱えるザンビア共和国で2年以上かけてスピルリナ（栄養価の高い食用藻）の配給までこぎつけましたが、より大規模に配給するためにはザンビア国内で効



ボランティアによるワークショップ

果測定プロジェクトを実施し、保健省に報告する必要がありました。2011年2月から2013年2月まで私たちは効果測定プロジェクトに従事しましたが、その道のりは苦難の連続でした。

効果測定にあたってはザンビア国内の研究機関で安全性確認のために成分分析がまず必要でした。分析結果の判明まで1週間の予定でしたが、遅れに遅れて結局2週間以上かかり、その上ようやく手に入れた結果には、通常なら60~70%のはずのタンパク質の含有率が20%というあり得ない数値が記載されていました。そんなはずはないと抗議したところ、次の日には早くも再分析が実施され、結果は通常のスピルリナの成分構成でした。ザンビアではこのように正しい分析結果を手に入れることさえも一苦勞です。



スピルリナ

安全性を認められたのち、効果測定実施のために、現地の食文化に適合したレシピ開発のワークショップを開催しました。ワークショップは現地NGOのProgramme Against Malnutrition(PAM)、農村の女性達が中心となりました。私は初めてザンビアの女性の働きを目の当たりにしましたが、そのチームワークと手際の良さに非常に驚きました。20名ほどの女性達が自然に作業分担し、手際良く6種類の現地レシピを作り上げていきます。ザン



スピルリナお粥の食事風景

ビアの非効率な場面ばかりを見てきた私は、その働きぶりに驚くと共に、アフリカの女性の強さを感じました。

スピルリナを配合した6種類の現地レシピを「味」、「香り」、「舌触り」、「色」の4つの観点から評価してもらったところ、とうもろこしの粉から作るお粥「ポリッジ」が最適という評価を得ました。恐れていた色や味への抵抗感はほとんどなく、むしろ味がまろやかになるなどの反応も得ました。この結果を受けて最終的な調査の設計を決定しましたが、私たちを待っていたのは調査の倫理性に関する承認という新たなチャレンジでした。

ザンビアでは調査を実施するにあたり、ザンビア大学の調査倫理委員会に承認を得る必要があります。ザンビアで調査の倫理性を評価する機関はこの委員会がほぼ唯一でザンビア中から数百もの調査案件がここに集まりますが、委員会が開催されるのは月にたった1度のみです。しかも何度も再提出を求められることが多く、ザンビアで調査を実施する上で最大のハードルの1つになっています。私たちも2度の再提出を求められ、承認を得るまでに9ヶ月もの時間を要しました。

ようやく実施可能になった効果測定的设计

は次のようなものです。60名の子ども達をスピルリナ投与と非投与の2グループに分け、前者にはスピルリナ入りのお粥の粉を与え、後者にはスピルリナを含まないお粥の粉を与え、家庭で1日2回の調理をお願いします。そして、月に一度身長、体重、上腕囲を計測し、両グループの発育を比較するというものです。お粥の粉を与えることでスピルリナを確実に食べてもらうことを期待しました。運用にあたっては

現地NGOのPAM、そして現地の幼児発育促進ボランティア、レシピ開発を担当した女性グループの力を借りました。

果たして母親達が協力してくれるか、スピルリナへの抵抗があるのではないかと、という不安を抱えてスタートしたプロジェクトでしたが、その懸念はすぐに払拭されました。ボランティア達が中心になって栄養の大切さ、スピルリナの栄養素などを説明したところ、母親達は前向きにプロジェクトに取り組んでくれました。子供が健康にすくすく育てて欲しいという母親の思いは文化や国境を越えて共通のものだとこの時強く思いました。

調査実施には様々な困難がありました。対象世帯の引越、計測への欠席、ボランティア間の衝突。しかしその都度、ボランティア達や現地駐在の日本人スタッフが現場に急行して対応を



身体測定風景



測定データの確認風景

し、なんとか課題を解決しながら調査を進めました。ボランティアは最低限の報酬で協力してもらいましたが、村の子ども達を健康にしたいという強い思いで調査を進めてくれました。

9ヶ月間の調査の結果、スピルリナを投与したグループは非投与グループよりも身長で2~3cm大きく発育しました。一方で体重と上腕囲への影響はほとんど見られず、ザンビアにおける課題が主にタンパク質や微量栄養素の不足による発育不全だということを結果的に証明することになりました。また、驚くべきことにマラリア予防の効果が見られました。スピルリナの非投与グループでは39.3%がマラリアに罹患した一方、スピルリナを投与したグループでは14.3%しか罹患しませんでした。これはスピルリナの免疫力強化の効果が発現した可能性があります。

この他にも母親からは「子供の食欲が増した。」「子供の肌の調子も良くなったので、プロジェクトを延長してもらいたい。」「スピルリナを摂取して以来体重が増加し、子供がとても活動的になった。」などの感想をいただき

ました。母親達のリクエストに従い、スピルリナの配布を継続することに決定しました。

私たちは今後この成果をザンビア政府に報告すると共に、来年には現地パイロット生産を開始し、アフリカでの現地生産の可能性を検証する予定です。将来的には現地に会社を設立し、現地に雇用を生み出し、現地の栄養不良を改善することを目指します。

多くの途上国でのプロジェクトが大きなビジョンを掲げる一方で、結局途上国の難しい課題に頓挫していきました。私たちが学んだのは日本と同じスピード感や仕事の常識でプロジェクトを実施しても物事は全く動かないということでした。効果測定プロジェクトで学んだことはとにかく粘り強く現地で活動するということが唯一の解決策だということです。本プロジェクトも「アフリカの栄養不良の撲滅」という非常に大きなビジョンを掲げたプロジェクトですが、鈍いくらいの粘り強さで今後も地道に進めていきたいと思えます。

アライアンス・フォーラム財団

1985年に米国サンフランシスコでベンチャーキャピタリスト原丈人により設立。

新しい技術を使って世界を変えることを目標に活動する。

近年では日本企業の持つ技術、サービス、製品を発展途上国の生活水準向上に活用する活動に注力しており、スピルリナ・プロジェクトもその一環。

当プロジェクトは世界最大のスピルリナ生産メーカーである、DIC（旧大日本インキ化学工業）の技術支援を受けて実施している。

北摂杉の子会のホームページ 更新情報

(平成25年3月～5月)

北摂杉の子会のホームページ (<http://www.suginokokai.com>) では、様々な法人の活動や情報提供をリアルタイムで掲載しております。

過去3ヶ月のホームページ更新状況をお知らせいたします。

ホームページでは、機関誌のバックナンバーもご覧いただけます。

ご興味のある方は『北摂杉の子会』で検索して、ぜひアクセスしてご覧ください！

掲載ページ	内 容
法人のご案内	事業所一覧更新
	法人情報更新
	組織図変更
	平成25年度 年度方針掲載
	法人役員変更
各施設のご案内	ふれいす Be 事業内容変更
	an 新聞・will 新聞・Link 新聞掲載
	療育支援部 OB 向け療育相談のご案内
	平成25年度 療育事業説明会のご案内
松上利男の一言	第59回 私たちのコア・バリューを考える
お知らせ	日本知的障害者福祉協会機関紙「さぽーと」平成25年3月号に、萩の杜生活支援員の荻谷厚志が参加した座談会掲載
	日本財団福祉車両助成事業完了のお知らせ
	常務理事松上利男が参加してる独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業より「働きがいのある人間らしい仕事をつくる」が発行
	はっぴいふれいす Be ガレットの Facebook ページを公開
	ジョブジョイントおおさかセミナー 「平成24年度 発達障害学生のためのキャリア支援を考える報告会」のご案内
	ジョブジョイントおおさか 平成25年上半年期 ご利用についてのご案内
	高槻 Jazz Street 2013にて、ふれいす Be のガレットとジョブサイトよどのコロツケを販売
	平成24年度 障害者総合福祉推進事業 「強度行動障害の評価基準等に関する調査」報告書発刊
リンク集	大阪自閉症協会 / アメリカ自閉症協会 / イギリス自閉症協会 追加
Café Be	ランチメニュー更新
	Café Be ミュージック・ディ情報更新

掲示板コーナー

(平成25年3月から平成25年5月まで)

法人本部総務部掲示板

3月	行 事
4日	重度・高齢化プロジェクト会議
6日	自閉症啓発デー実行委員会
11日	経営会議
19日	工賃向上講座・合意形成講座 主催：株式会社インサイト
22日	運営会議
24日	第86回理事会・第48回評議員会 (高槻市立生涯学習センター 研修室) 決議事項 第1号議案 理事・評議員選任の件 第2号議案 法人組織再編の件 第3号議案 定款変更の件 第4号議案 ぶれいすBe事業の一部廃止と定員変更の件 第5号議案 新事業開始の件 第6号議案 発達障がい児専門療育機関業務の受託の件 第7号議案 諸規則、規程類の改正の件 第8号議案 施設長・部長人事の件 第9号議案 平成25年度 社会福祉法人北摂杉の子会 事業計画(案)の件 第10号議案 平成25年度 社会福祉法人北摂杉の子会 予算(案)の件
25日	採用応募者施設見学会 (will)
26日	総務会議
28日	自閉症啓発デー実行委員会

4月	行 事
2日	自閉症啓発デー (高槻市立生涯学習センター多目的ホール) ドキュメンタリー映画「ちづる」を上映会 他
8日	経営会議
12日	運営会議
16日	工賃向上講座・合意形成講座 主催：株式会社インサイト
20日	平成25年度第1回法人研修 (高槻現代劇場 305号室) ①平成25年度理事長方針の発表 ②各事業所の事業方針の発表 ③資格取得表彰 ④業務貢献表彰及び内容発表
23日	総務会議
24日	重度・高齢化プロジェクト会議
25日	採用応募者施設見学会 (萩の杜・レジデンスなさはら・ぶれいすBe)
26日	運営会議 採用応募者施設見学会 (ジョブサイトよど・ジョブジョイントおおさか) 虐待防止委員会

5月	行 事
9日	経営会議
10日	運営会議
11・19日	法人採用説明会
13日	全国自閉症者施設協議会会議 (本部会議室)
14日	北摂杉の子会後援会役員会 (高槻現代劇場 203号室)
21日	採用応募者施設見学会 (will)
22日	総務会議
23日	採用応募者施設見学会 (萩の杜・レジデンスなさはら・ぶれいすBe)
24日	採用応募者施設見学会 (ジョブサイトよど・ジョブジョイントおおさか)
26日	第87回理事会・第49回評議員会 (高槻現代劇場 集会室206室) 決議事項 第1号議案 新事業開始の件 第2号議案 高槻市行政監査・実施指導の件 第3号議案 諸規則・規程類の改正の件 第4号議案 公益通報者保護規程新設の件 第5号議案 平成24年度 事業報告承認の件 第6号議案 平成24年度 決算承認の件 第7号議案 平成24年度 監事監査報告の件 第8号議案 評議員選任の件
30日	重度・高齢化プロジェクト会議 虐待防止委員会

(河辺 記)



採用応募者見学会



萩の杜 掲示板

日帰り旅行 (ハーベストの丘)

今年度、萩の杜では、ご利用者の希望に応じて、日帰り・宿泊のどちらかの旅行に参加していただけるよう企画しています。



5月31日に第一弾としてハーベストの丘に行ってきました。
少し早い梅雨入りに天気が心配されましたが、当日は快晴でご利用者も楽しそうな様子でした！



萩の杜新入職員の
阿野貴志です。
今後ともよろしく
お願いします。



萩の杜 大型改修工事 第4弾 バランダ改修

昨年度より「屋根」「エアコン」「床」と計画的に改修を進めてまいりました。現在は、バランダの改修を進めています。バランダに使用されているのは「アイアンウッド」と呼ばれる「ウリン材」。修繕することで、まだまだ使用できるとのこと。完成が待ち遠しいです。



修繕すると



開所当時の色になります

(勝部 記)

ジョブサイトひむろ掲示板

(3~5月のレクリエーション・行事)

3~5月の外出時や作業風景の写真を掲載しています。
今期は各グループのレクリエーションに加え、祝日を利用した季節感あふれるイベントも開催され、ひむろのご利用者の方々も多数参加されました。

そうぞう3レクリエーション

4月16日 伏見屋とうふ工場見学



「はたらくってたのしい!」 イベント

3月20日



祝日プログラム (こいのぼりフェスタ)

4月29日



(森田 記)

大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか

3月	行	事
1日	大阪府成人期発達障がい地域支援体制サポート事業	訪問相談（大東：あーす）
8日	施設コンサルテーション フォローアップ事業	事例検討会
	大阪府成人期発達障がい地域支援体制サポート事業	実践報告会
12日	自立支援協議会	
14日	佐野支援学校	実践報告会
17日	JDD ネット	
18日	大阪府体制整備検討部会	

4月	行	事
12日	大阪府こころの健康総合センター挨拶	
19日	サポート事業	事業説明（高槻：あんだんて）

5月	行	事
2日	大阪府成人期発達障がい地域支援体制サポート事業	事業報告集原稿依頼（大東：あーす）
7日	大阪府成人期発達障がい地域支援体制サポート事業	事業説明+ガイダンス（豊中：る〜ぶ）
8日	大阪府成人期発達障がい地域支援体制サポート事業	事業報告集原稿依頼（八尾：ちのくらぶ）
9日	成人期発達障がい者地域支援ネットワーク会	事業説明（茨木：菜の花）
	大阪府とコーディネーター派遣事業について打ち合わせ	
11日	グループミーティング	第1回目
14日	成人期発達障がい者地域支援ネットワーク会	事業説明（吹田：シード）
15日	成人期発達障がい者地域支援ネットワーク会	事業説明（枚方：陽だまり）
16~18日	発達障害者支援センター職員研修会（第1回）	（国立障害者リハビリテーションセンター）
20日	サポート事業	事業報告集原稿依頼（熊取：熊取療育園）
	成人期発達障がい者地域支援ネットワーク会	事業説明（阪南：まつのき園）
24日	成人期発達障がい者地域支援ネットワーク会	事業説明（河内長野：かーな）
	府内3センター（アクトおおさか・エルムおおさか・堺市）	情報交換会
28日	ご家族向け学習会	第1回目
29日	サポート事業	ガイダンス（高槻：あんだんて）
30日	大阪障害者職業センター連絡協議会	

（堀内 記）



ご家族向け学習会

研修相談支援室・PASSO 掲示板

3月	行	事
1日	高槻市教育センター研修「実践報告会」	
2日	和泉市教育委員会「実践報告会」	
3日	高槻市リーディングスタッフ研修のスーパーバイズ	

4月	行	事
1日	平成25年度個別評価コース9名決定	

5月	行	事
10日	摂津市3校年間9回の巡回指導開始	
13日	思春期連続講座第1回目（淀川区民センター）（16名参加）	
17日	摂津市コーディネーター研修（30名参加）	
20日	和泉市4校 年間14回 の巡回指導開始	
21日	和泉市特別支援教育連続講座 第1回目（40名参加）	
24日	家族グループ第1回目（8名参加）	
24日	高槻市自閉症連続基礎講座 第1回目（106名参加）	
28日	豊能町ケース会議	
31日	豊能町 1校 年間2回 巡回指導開始	
31日	泉大津市 管理職研修	

（大澤 記）

研修相談支援室は、4月より「大阪自閉症支援センター」から名称変更し、スタッフも新たに業務をスタートさせました。主に、障がい福祉制度によるサービスはないけれどもニーズの高い中高生の自閉症スペクトラムの方を対象とした本人支援、自閉症のある方々の相談や発達検査、家族支援、自閉症理解のための研修会開

催や講師派遣事業をしています。

今年度は、中高生の本人支援をしております「PASSO」の支援中に、同じ建物内のジョブジョイントおおさかで職場体験実習をさせていただき、中高生からの早期療育、支援を職場で生かす事にチャレンジさせていただいております。

今、少しよろしいでしょうか？



できました。



発達障がい児療育支援部掲示板

○児童デイサービスセンター an

3月	行 事
1日	保護者研修入門
8日	保護者研修実践
12～ 19日	まとめの面談
21日	継続児契約会
22日	平成25年度新規療育児募集説明会（大阪市の方対象）
23日	平成25年度決定者説明会

4月	行 事
1日～ 6月3日	発達検査
20日	法人研修
26日	継続児療育

5月	行 事
10日	保護者研修入門A
17日	保護者研修入門B
24日	継続児療育
31日	保護者研修実践

○自閉症療育センター will

3月	行 事
1日	保護者研修 入門A
8日	保護者研修 入門B
13～ 14日	口腔保健活動
15日	実践交流会

4月	行 事
1日～ 5月16日	発達検査
20日	法人研修
26日	スタッフ会議

5月	行 事
21日	採用応募者見学会
24日	保護者研修 入門A
31日	保護者研修 入門B スタッフ会議

○自閉症療育センター Link

3月	行 事
1日	保護者研修 入門A
8日	保護者研修 入門B
15日	実践交流会
14～ 21日	口腔保健活動
21～ 22日	平成25年度 療育決定者説明会
22日	避難訓練

4月	行 事
1日～ 5月17日	発達検査
8日	スタッフ会議
20日	法人研修

5月	行 事
24日	保護者研修 入門B
31日	保護者研修 入門A

(谷岡 記)

ジョブサイトよど掲示板

3月	行 事
5日	エアロビクス
7日	避難訓練
13日	コロッケ販売（新大阪ニッセイビル）
16日	土曜クラブ
18日	コロッケ販売（大阪社会福祉指導センター前）
19日	エアロビクス

4月	行 事
2日	エアロビクス
10日	コロッケ販売（新大阪ニッセイビル）
11日	コロッケ販売（十三フレンドリー商店街）
16日	エアロビクス
18日	コロッケ販売（トレードピア淀屋橋）

4月	行 事
19日	コロッケ販売（大阪社会福祉指導センター前）
27日	土曜クラブ
30日	エアロビクス

5月	行 事
8日	コロッケ販売（新大阪ニッセイビル）
9日	コロッケ販売（トレードピア淀屋橋）
10日	コロッケ販売（大阪社会福祉指導センター前）
13日	コロッケ販売（十三市）
14日	エアロビクス
25日	土曜クラブ
28日	エアロビクス

(田端 記)



厨房での様子



土曜クラブ (料理)



土曜クラブ (カラオケ)

ぶれいす Be 掲示板

3月	行	事
7日	マイドームおおさかでの「工賃向上フェスタ」にてガレット販売	
9日	Cafe Beにてカフェコンサート開催 (出演：高槻サインオーケストラ様 来場者数100名)	
18日	ぶれいす Be 内部研修実施 (内容：各チームからの取り組み報告)	
29日	御堂筋ふれあいバザーにおいてガレット販売	

見学：6件24名

4月	行	事
2日	高槻市で開催された「世界自閉症啓発デー」イベントにて、ガレット販売	
13日	「ぶれいす Be 級グルメ大会」(土曜開所日) 昨年同様に寺田軌道株式会社様の全面のご協力のもと、大盛況でした。	
26日	広報紙「Be どうし」春号を発行	

見学：4件17名

5月	行	事
3~4日	「高槻ジャズストリート」にて、ガレット販売。販売にあたって、 大阪ローターアクトクラブ様に多大なるご支援をいただきました。	
11日	土曜開所日として、チームごとにプログラムを実施	
14日	御堂筋ふれあいバザーにてガレット販売	
16日	大阪ローターアクトクラブ様の活動報告会 寄附金と車いす1台ご寄贈いただきました。	

見学：5件29名
(下 記)

♪ 3月 カフェコンサート ♪



◎ 4月 Be級グルメ ◎



おいしかった!

*** 4月 お花見 ***



*** 5月 バラ公園 ***



♣ 5月 緑の文化園 ♣



◆ 5月 ボーリング ◆



ジョブジョイントおおさか掲示板

3月	行	事
2日	土曜開所日	土曜クラブ
7日	後期避難訓練	
21日	会社見学会	オムロン京都太陽（オムロンの特例子会社）
23日	土曜開所日	土曜クラブ

4月	行	事
15~27日	個別支援計画	報告懇談
17日	会社見学会	シャープ特選工業株式会社（シャープの特例子会社）
27日	土曜開所日	土曜クラブ

5月	行	事
17日	会社見学会	株式会社ニッセイニュークリエーション（日本生命の特例子会社）
18日	土曜開所日	土曜クラブ

（山田 記）

萩の杜家族会掲示板

3月	行	事
3日	定例会、臨時役員会	・新年度役員候補の選定
10日	クロスカントリーバザーに出店	・パン、フランクフルトソーセージ、おにぎりの販売
21日	四家族会会長懇談会	
24日	カトリック高槻教会にて	花の販売
28日	サークル萩開催	手作り品の作成と情報交換会

4月	行	事
11日	イオンイエローレシートキャンペーン贈呈式出席	イオンイエローレシートキャンペーン参加
21日	定期総会	・昨年度事業報告、会計報告、会計監査報告、 新年度役員選出、新年度事業計画、予算計画 カトリック高槻教会にて花の販売
22日	安全対策委員会	・誤薬の対策について
24日	広報グループ	機関紙発送協力
25日	サークル萩開催	

5月	行	事
8日	サークル萩開催	
11日	イオンイエローレシートキャンペーン参加	
15日	三島の郷見学会	（会長参加）
22日	四家族会会長懇談会	
23日	サークル萩開催	
24日	定例会とホットトーク	・ホットトークでは、山根主任より具体的な支援の実施例の説明があり、分かりやすかった。
26日	カトリック高槻教会にて	花の販売
31日	サークル萩開催	・座椅子、アクリルたわし等の受注が多く、 今月はサークル萩の活動が活発であった。

（植松 記）

サークル萩の活動風景



サークル萩の作品例



ジョブサイトひむろ家族会掲示板

3月	行	事
14日	なさはら親の会開催	なさはら入居の家族出席
21日	第6回家族会会長懇談会	豊澤会長出席
22日	第5回役員会	総会準備、新旧役員引継
23日	父親会	居酒屋にて懇親会
24日	北摂杉の子会評議員会	豊澤会長出席
26日	杉の子会ゴルフコンペ	

4月	行	事
5日	第6回役員会	総会資料作成
16日	定期総会	<ul style="list-style-type: none"> ・24年度事業活動報告 ・24年度決算報告及び会計監査報告 ・家族会会則改訂審議 ・25年度役員選任 ・25年度事業計画 ・25年度予算計画 ・新会員紹介、バス寄付金 ・後援会への協力お願い ・家族会連絡網について ・中村理事長より25年度の方針、組織図説明 ・森田施設長より25年度事業計画説明 ・平野部長より地域生活支援部について説明 ・松上常務理事より全国自閉症者施設協議会について ・萩の杜、ぶれいす Be、ジョブサイトよど 各家族会会長ご挨拶 ・総会終了後 ランチ懇親会開催
24日	広報委員会	機関誌53号発送

5月	行	事
14日	北摂杉の子会後援会役員会	豊澤会長出席・永田様出席
15日	三島の郷見学会	豊澤会長・東様参加
22日	第1回家族会会長懇談会	豊澤会長出席
26日	北摂杉の子会評議員会	豊澤会長出席

(宮階 記)

ジョブサイトひむろ家族会新役員



後列左より

瀬戸(事務局) 宮階(事務局) 豊澤(会長) 林(副会長) 久慈(会計)

前列左より

妹尾(会計) 入江(事務局) 干場(副会長) 山口(事務局) 梁(会計監査)

ジョブサイトよど&ジョブジョイントおおさか家族会掲示板

3月	行 事
4日	オアシス主催 中村理事長の奥様の講話にて100円喫茶実施 3月役員会開催 100円喫茶実施
11日	オアシス役員会にて100円喫茶実施
15日	オアシスサロンにて100円喫茶実施
20日	大阪自閉症支援センター母親研修にて会長体験談を講演100円喫茶実施
21日	5家族会会長会議参加
24日	北摂杉の子会理事・評議員会（会長出席）
25日	勉強会（26人参加） 大阪府発達障がい支援センター新澤センター一長をお招きして自閉症の障がい理解を深めた。 3月定例会実施（26人参加） 松上常務理事兼施設長、田端副施設長代理、高橋副施設長参加 100円喫茶実施。
27日	プラザオオサカにて懇親会実施（26人参加） 松上常務理事兼施設長はじめ支援員と家族会が交流を図った

4月	行 事
1日	4月役員会開催 100円喫茶実施
12日	オアシス役員会にて100円喫茶実施
16日	ジョブサイトひむろ家族会総会（会長出席）
17日	大阪弁護士会主催 松上常務理事「障がい者虐待について」講演（会長出席）
20日～5月1日	大阪自閉症協会主催世界自閉症啓発作品展に協力参加
21日	萩の杜家族会総会（会長出席）
24日	平成25年度総会開催（26人参加） 来賓中村理事長、松上常務理事兼施設長 高橋福施設長、田端副施設長代行、オアシス会長参加 100円喫茶実施
25日	オアシスサロンにて100円喫茶実施 ジョブジョイントおおさかインターシップ報告会（会長、役員出席）

5月	行 事
9日	オアシス役員会にて100円喫茶実施
13日	十三市参加 5月役員会開催 100円喫茶実施
14日	法人後援会総会（会長出席）
22日	5家族会会長、後援会会長会議（会長出席）
28日	オアシスサロンにて100円喫茶実施

（福田 記）

ぷれいすBe家族会掲示板

3月	行 事
5日	コーラスグループ「コールつばさ」練習会（今城塚公民館）
7日	三役会
11日	ショートステイ事業に関する懇談会（ぷれいすBe内ショートステイ施設） 参加者：12家族13名、下施設長、チームリーダー・上杉氏ほか職員4名。 昨年度に続き、現場の方々のお話をうかがったり、ご利用者からの希望を述べたりして、和やかに懇談した。
14日	役員会（今城塚公民館） 審議事項 ・ケアホーム・グループホームに関するアンケート実施 ・今期決算見込みと来期予算 ・後援会入会状況と入会手続き ・『地域に生きる』掲示板原稿 ・来期役員の仕事分担 ・総会に向けての段取り、当日の運営の仕方および役割分担報告事項 ・下施設長からの事業報告
19日	コーラスグループ「コールつばさ」練習会（今城塚公民館）
21日	北摂杉の子会家族会会長懇談会（出席者：本城）
24日	北摂杉の子会評議員会（出席者：本城）

4月	行 事
1日	大門陽子・財津寿恵会計監査により第3期平成24年度決算の監査
4日	臨時役員会（ぷれいすBe会議室） 第4期定期総会開催のお知らせ、総会議案書を全会員宛に配布 コーラスグループ「コールつばさ」練習（今城塚公民館）
11日	役員会 ・定期総会出席人数（家族数）の確認 ・総会の準備物の用意、役割分担の最終確認
12日	コーラスグループ「コールつばさ」練習（今城塚公民館）
13日	第4期定期総会（カフェBe：10時～12時） 会員総数48家族、出席者29家族（34名）、委任状13家族で総会成立。 審議事項 ・平成24年度活動報告 ・平成24年度収支会計監査報告 ・平成25年度役員、会計監査、参与選出 ・平成25年度事業基本計画案 ・平成25年度予算計画案 に関わる第1号から第5号議案まで、すべてが全会一致で承認（議長は岡田さん） 議事終了後来賓挨拶

4月	行 事
13日	<ul style="list-style-type: none"> 中村節史理事長より平成25年度法人基本方針の発表 松上利男常務理事より現況報告 植松芳哲萩の杜家族会会長、東敬司レジデンスなさはら親の会代表より祝辞 下ぶれいすBe施設長より平成25年度の事業計画の発表 <p>以上の議事・挨拶を受けて、出席者の間で質疑応答・意見交換（昼食の食材・形態について、「ひやりはっと」の事例および職員研修について、ガレット販売について）が行われた</p> <p>本城会長より後援会入会への勧誘があった後、閉会そして今年度新たに「コールつばさ」の女声合唱があり、美しい歌声とともに散会</p> <p>なお総会終了後全会員に「ぶれいすBe家族会第4期総会のお礼と報告」配布 (総会欠席会員には、総会当日配布資料を添付)</p>
16日	ジョブサイトひむろ家族会総会 (出席者：斉藤・厚東)
21日	萩の杜家族会総会 (出席者：斉藤)

5月	行 事
2日	三役会 (ぶれいすBe 会議室) (出席者：本城、斉藤、辰己、和田、厚東) 役員会の議事打ち合わせと資料整理
9日	役員会 (ぶれいすBe 会議室) 総会の議事録について：2名の署名人に確認のうえ署名していただき確定。 審議事項 <ul style="list-style-type: none"> ケアホームアンケート集計結果に関するコメント 平成25年度の活動計画 (参観&ランチ・父親の会の日程、グループホーム見学会の行き先と日程) 会費支払い困難な会員に対する対応の件 役員間での役割分担の詳細 報告事項 「大阪RAC (ローターアクトクラブ)」のガレット販売協力、および下施設長よりご利用者の就職状況
10日	コーラスグループ「コールつばさ」練習 (今城塚公民館)
14日	北摂杉の子会后援会役員会 (出席者：本城)
15日	法人役員有志による「三島の郷」見学会 (出席者：本城・厚東)
18日	大阪RAC活動報告会 (出席者：本城)
26日	北摂杉の子会評議員会 (出席者：本城)

(本城・厚東 記)

自閉症スペクトラム児・者を支援する親の会 オアシス掲示板

3月	行 事
4日	中村悦子氏講演会「自閉症の子どもたちの将来に向けて」
11日	3月度役員会
15日	オアシスサロン

4月	行 事
7日	自閉症啓発ウォーキング (副会長・相談役・ご本人様参加)
15日	4月度役員会
24日	ジョブサイトよど&ジョブジョイントおおさか家族会総会出席 (会長)
25日	オアシスサロン

5月	行 事
9日	5月度役員会
26日	北摂杉の子会評議員会 (相談役出席)
28日	オアシスサロン

(村井 記)

北摂杉の子会後援会掲示板

本会の活動に対し、萩の杜、ジョブサイトひむろ、ジョブサイトよど&ジョブジョイントおおさか家族会、おれいすBeの家族会を含む多くの方々のご支援をいただき、まことにありがとうございます。今後ともより一層のご協力をよろしくお願い申し上げます

<近況報告>

- 3月 個人会員：584名、団体会員：16団体
合計：600名／団体 寄付：3件
- 4月 個人会員：505名、団体会員：16団体
合計：521名／団体 寄付：1件（退会者あり）
- 5月 個人会員：519名、団体会員：19団体
合計：538名／団体 寄付：7件

<行 事>

- ・2013年（平成25年）度の定例役員会を開催しました（議事録抜粋）
期 日）2013年5月14日（火）
参加者）役員（10名全員、委任状4名を含む）、相談役（5名全員）

1. 2012年度の活動

- 1) 会員数
個人会員：584名、団体会員：16団体、合計：600名／団体
- 2) 後援会費及び寄付
後援会費：144万円、寄付：40万円、合計：184万円
- 3) 経緯
 - ・法人への寄付
2012年6月に150万円（「杉の子農園」の立ち上げ、整備のための諸費用に充当）
 - ・セキスイハイム住宅紹介制度は実績なし
 - ・定例役員会（総会）に加えて臨時役員会を2回開催し（2012年9月、2013年1月）、資金集めの問題などを話し合った
 - ・法人各施設、事業所の取引業者様20社に後援会への入会をお願いし、7社に入会／会費納入をしていただいた

2. 2011年度の収支と会計監査報告

- 1) 収入
前期繰越金：1,544,862円、寄付金：395,532円、後援会費：1,442,000円、受取利息：467円、収入合計：3,382,861円
（今年度の収入：1,837,999円）
- 2) 支出
事務費：3,200円、通信費：1,760円、雑費：23,380円、法人への寄付：1,500,000円、支出合計：1,528,340円
- 3) 次期繰越金
1,854,521円（2013年3月31日現在）

監査役が上記の会計報告について適正に運用されていることを確認した

3. 2013年度の活動計画

- 1) 法人への寄付
180万円を寄付する（2012年5月に実施済み）。その用途について法人から説明があり、異議なく了承された：法人の「地域に生きる」のロゴ（商標登録申請中）を付けたTシャツ、エプロンを作り、利用者やご家族に着ていただくことを計画している。そのための資金に充当する予定
- 2) 後援会員の整理と資金計画
 - ・退会希望者などがあったため、個人及び団体会員の整理を行った
 - 今年度開始時の会員数は、個人会員：490、団体会員：16、合計：506名／団体
 - ・資金計画→後援会費、寄付、その他で約158万円の収入を目標にする
- 3) セキスイハイム住宅紹介制度
今年度も継続する（住宅を建てる際にこの制度を利用すると、成約者：建物本体価格の3%割引、後援会に50万円、紹介者に10万円が支払われます：連絡先は後援会事務局）

<その他のご報告>

2013年度以降の後援会役員は、次のとおりです

会 長：棚山 薫晴
幹 事：植松 芳哲、小林 夏子、豊澤 進、
福田 啓子、本城征治郎、松岡 洋市
会 計：新田 順子
事務局：佐々木寛昭

（以上、役員）

監 査：永田 啓子
相談役：今村一二三、中村 節史、沖本 卓郎、
松上 利男、本田 英世

（棚山 記）

「地域に生きる」ロゴTシャツ



寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。お振込みは右記口座まで。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

記

1. 寄付金(注)
2. 個人会員 年間一口 2,000円
3. 団体会員 年間一口 10,000円

郵便振込口座北摂杉の子会
00920-8-90859

(注) 任意団体である後援会の領収書では確定申告の際に寄付金控除を受けることは出来ませんので、寄付金控除の出来る領収書をご希望の方は法人の下記口座にお振込み願います。

銀行名：三菱東京UFJ銀行 支店名 高槻支店 口座名：社会福祉法人北摂杉の子会 理事 中村節史
口座番号：5085555

法人へのご寄附に感謝いたします。(平成25年3月1日～平成25年5月31日)

河端良一 棚山薫晴 久保 いずみ 板倉ひろ子 中村 節史 福田 啓子 近藤 勝
ボランティアグループかたつむり 大阪ローターアクトクラブ カトリック高槻教会
株式会社クリエイト・プランニング オーラルヘルスケアサービス

後援会入会と会費納入(平成25年2月8日～平成25年5月31日)

上里浩子 秋山 進 東 敬司 安部匠真 安部勢津子 安部文博 安部晶巳 安部美和 有川航平 有川輝久
有川智美 有川光洋 有川洋太郎 有川由子 飯塚むつみ 池下貞子 池田満智子 池田美保子 井桁友紀枝
井田 進 伊藤雅子 伊東洋一 井上誠子 井上久則 今村一二三 今村圭子 今村誠吾 今村聡之 今村暢也
岩井光男 梅本順子 榎本滋子 榎本貴夫 遠藤一太 遠藤仁子 太田典子 太田 実 大塚徹也 沖本公郎
沖本卓郎 沖本 太 沖本美公子 奥 昌子 小野明子 垣端敏栄 垣本寿也子 笠原隆之助 柏原紀男
柏原ひさゑ 片岡厚子 加藤 浩 角谷慶子 金子京子 紙 和子 柄須賀咲智子 川田紀久夫 川村 巧
川村初子 北爪隆子 北爪敏雄 北村久美子 木下 潤 木下直子 木谷政之 具志堅郁子 具志堅 進
窪田富佐子 倉本ことみ 黒澤和子 黒澤桂子 強田純子 小林伸次 小林真理子 小林善浩 財津博文 斉藤廣子
坂井恵美子 坂本啓子 佐々木サツキ 佐藤康子 澤田幸子 澤田博美 澤田良造 塩野高志 志賀亞之 嶋田輝美
志村敦子 新川 彰 鈴川和美 鈴木都美 鈴木規子 関 隆志 関 登美子 関 正弘 関 喜子 関 良子
竹内東洋秀 竹内知子 田子森幸子 田中 収 棚山勝行 棚山薫紀 棚山薫晴 棚山 妙 谷川百合 田村和子
段野恵美 坪本英記 出口幸平 寺村義則 篤田晴子 登間佐孝男 豊澤 進 中井淑子 永田啓子 永田健二
中西邦夫 中村 潤 中村四葉 縄 富志博 縄 富志盛 西岡三九子 西坂徹雄 西田源太郎 西原香織
西原圭一 西原清二 西原尚史 西原律子 西村晴夫 新田利秀 自閉症の人のバリアフリーを考える親の会
はぐくみ 橋長寿子 橋本紀子 八里さだ 林 智恵 原 豊美 久常和子 久常進治 平野千鶴子 平林征男
平原悦子 福田節子 藤井弘子 藤岡紀子 藤岡 宏 藤田晴美 古門貞利 降幡 聡 星野早智子 本城征治郎
本城 翼 本城三四子 本田千秋 前田浩子 増田 博 増淵紘子 松岡洋市 真野利之 南 俊一郎 南 直美
南 浩聡 南 昌子 南 雄太 三宅紀子 三宅陽一 村井尚子 村山宣明 寺村有理子 森 洋見 森 正輝
森谷薫美 森 泰雄 森谷奈津美 安原邦高 山内千鶴子 山尾朝子 山尾郁保 山尾壮志 山尾 崇 山里文男
山下 学 吉川輝夫 吉川弘子 吉田敏朗 株式会社安全食品流通センター 伊丹産業株式会社 三光株式会社
有限会社北摂初田 ひばりクリニック 高橋明彦 社会福祉法人なみはや福祉会 中津保育園園長 中村清子
松岡建設株式会社 松岡茂雄 株式会社ネットワークビジネスソリューションズ 代表取締役 吉田耕志 匿名様

後援会への寄付(平成25年3月1日～平成25年5月31日)

柏原ひさゑ 棚山薫晴 遠藤仁子 橋本恵美子 新川 淳 若月静子 宮本東雨 志賀亞之 川合定雄 匿名様

家族会へのご寄附に感謝いたします。(平成25年3月1日～平成25年5月31日)

植松芳哲 本田英世 牧野昭子 出口幸平 田口容子

物品のご提供に感謝いたします。(平成25年3月1日～平成25年5月31日)

米奥 荒木 金森 柄須賀 鶴谷久子 白木幸 白倉三千子 沢田幸子 不二園芸 杉田鍼灸院 川村紫朗
川村智香子 分嶋健介 木下雅友

ボランティアに感謝いたします。(平成25年3月1日～平成25年5月31日)

草刈茂代 坂井恵美子 佐々木英世 上里浩子

(敬称略 順不同)

施設住所一覧

- **社会福祉法人北摂杉の子会 法人本部事務所**
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル203
TEL (072)662-8133 FAX (072)662-8155
[E-mail] info@suginokokai.com
[URL] http://www.suginokokai.com
- **知的障害者生活施設 萩の杜** (施設入所支援・生活介護)
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0099 FAX (072)699-0130
[E-mail] haginomori@suginokokai.com
- **萩の杜ショートステイセンター ぶれす**
(短期入所・日中一時支援)
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0844 FAX (072)699-0130
[E-mail] breath@suginokokai.com
- **ケアホーム とんだ** (共同生活介護)
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14 101号室
- **ケアホーム みやた** (共同生活介護)
〒569-1142 高槻市宮田町3-4-1 105号室
- **レジデンスなさはら** (共同生活介護)
〒569-1041 高槻市奈佐原3丁目15番1号
- **ジョブサイトひむろ**
(生活介護・就労移行支援・就労継続支援B型)
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL (072)697-2234 FAX (072)697-2222
[E-mail] himuro@suginokokai.com
- **高槻地域生活総合支援センター ぶれいす Be**
(生活介護・就労継続支援B型・短期入所・日中一時支援)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4700 FAX (072)681-4900
[E-mail] placebe@suginokokai.com
〈短期入所〉 TEL (072)681-4720
- **生活支援センター あんだんて**
(指定特定相談支援・指定一般相談支援事業)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4755 FAX (072)681-4900
[E-mail] andante@suginokokai.com
- **大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか**
(発達障害者支援センター事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)6100-3003 FAX (06)6100-3004
[E-mail] act-osaka@suginokokai.com
[URL] http://homepage3.nifty.com/actosaka/
- **研修相談支援室・PASSO**
(法人独自の公益事業〈検査・相談・研修・本人支援・講師派遣〉)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL&FAX (06)4862-5454
[E-mail] o-center@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp
- **児童デイサービスセンター an**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-8990 FAX (06)6838-7015
[E-mail] an@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp
- **自閉症療育センター will**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F
TEL (072)662-0100 FAX (072)662-0056
[E-mail] will@suginokokai.com
- **こども相談支援センター wish**
(指定特定相談支援・指定障害児相談支援事業)
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F
TEL (072)605-1140 FAX (072)662-0056
[E-mail] wish@suginokokai.com
- **自閉症療育センター Link**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3F
TEL (072)841-2411 FAX (072)841-2412
[E-mail] link@suginokokai.com
- **ジョブサイトよど** (生活介護・就労継続支援B型)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-7007 FAX (06)6838-7015
[E-mail] yodo@suginokokai.com
- **ジョブジョイントおおさか**
(自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)6100-0150 FAX (06)6309-3007
[E-mail] jj@suginokokai.com

※■は行政よりの委託事業

発行人 社会福祉法人 北摂杉の子会
理事長 中村 節史
発行所 北摂杉の子会
住所 大阪府高槻市大字萩谷14番地1
発行日 2013年7月10日
定価100円